



豊田 佐吉 (とよだ さきち)

1867 - 1930 (慶応3年 - 昭和5年)

- 西暦年号 ●主な事柄
- 1912 明治45年 藍綬褒章を受章。
- 1914 大正 3年 名古屋離宮にて大正天皇に拝謁。
- 1924 大正13年 2度目の藍綬褒章(飾版)を受章。
- 1926 大正15年 帝国発明協会より恩賜記念賞を受賞。
- 1927 昭和 2年 勲三等瑞宝章(明治勲章)を受章。  
名古屋離宮にて昭和天皇に単独拝謁。
- 1930 昭和 5年 従五位に叙せられる。
- 1985 昭和60年 工業所有権制度100周年を記念し、「日本の偉大なる発明者10人」に選ばれ、政府から特別顕彰される。



〈勲三等瑞宝章〉 〈藍綬褒章〉



〈勲記〉



豊田 佐吉

〈特許庁ロビーのレリーフ像〉

格言

1. 創造的なものは、完全なる営業的試験を行うにあらざれば、真価を世に問うべからず。
2. 障子を開けてみよ、外は広いぞ。

佐吉翁が、中国に工場を建設しようと上海に渡り、紡織業を視察したのは1918(大正7)年のことでした。しかし、当時の両国の関係から、日本企業の進出は困難であったこともあり、あえて進出する必要はないと周囲の人々は反対しました。佐吉翁は、両国の親善の大切さを力説し、「障子を開けてみよ 外は広いぞ」と周囲を説得したといわれています。

1. 少年期の思い

各国でベストセラーとなった『自助論』は、日本では1871(明治4)年に欧米の三百余人の成功立志談の『西国立志編』として翻訳刊行されました。「天は自ら助くる者を助く」の自助精神は、多くの若者に深い感銘を与えました。佐吉翁も若かりし頃、山口観音堂で行われた夜学会で仲間とともに『西国立志編』を輪読し、将来に思いをめぐらしました。



2. 発明に専心

佐吉翁は、朝早くから夜遅くまで発明に没頭していました。ある日、考えが浮かぶと工場に飛び込みました。「だれかおらんか。」と言っても工場はガランとして誰もいません。あとからついていった家族のものが、「今日は正月でございます。」と言ったので、「ああそうだったか。」と大笑いしたといいます。



3. 車返しの坂

佐吉翁は、故郷の山口に帰るときに、鷺津駅前の人力車によく乗りました。山口には古見八幡神社の脇を抜け、急坂の村境の切り通しを通るのですが、必ず坂の前で降りて家まで歩きました。ある時、車夫が家までお送りしますと言うと、「村の人たちが汗水流して働いている中を平然と通ったら罰が当たります。」と答えたということです。



4. 佐吉風

佐吉翁が好きなことは、郷里では有名でした。翁は風のないときでも凧を揚げた名人でもありました。わざわざ見物に来る人もいたといいます。「風がないからといってあきらめてはいけません。どうしたら揚がるかを考えて努力すること」翁は言いました。近所の子供にも気安く声をかけ、笑って話をしたといいます。



問い合わせ先  
〒431-0492 湖西市吉美3268  
湖西市教育委員会 生涯学習課 TEL.053-576-1140

湖西の生んだ偉人

豊田佐吉翁

